

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 【新】ふたつのふるさと（海・山の防災交流）事業費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

総合企画部未来創成局 未来創成課 第二係 電話番号：058-272-1111(内2717)

E-mail : c11179@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 6,000千円 (現計予算額： 0千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 収 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	6,000	0	0	0	0	0	0	0	6,000
決定額	6,000	2,005	0	0	0	0	0	0	3,995

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

県では、人口減少や若年層の県外流出が進行しており、地域の担い手確保が課題となっている。一方、都市部では地方との多様な関わり方（関係人口）への関心が高まっており、子ども世代の交流や経験が将来の関係人口の増加につながることが期待される。

また、南海トラフ地震などの広域災害を想定すると、本県が避難先として受け入れ可能な体制を平時から整備しておくことが重要である。

こうした背景を踏まえ、県外児童生徒が岐阜県を「もうひとつのふるさと」と感じられるような宿泊・交流・防災体験を通じて、関係人口の創出と災害時の受援体制強化を同時に図る必要がある。

(2) 事業内容

市町村から募集した「県外児童生徒との宿泊・交流・防災体験を含む事業提案」のうち優良事例に対して補助を実施

【対象事業者】市町村 【補助率】10／10 【補助限度額】200万円

【補助対象事業】

市町村から優れたアイデアを募集する方法（政策オリンピック）により選定した事業であって、次の要件を全て満たすもの

ア 岐阜県内において、県内と県外の児童生徒との間で、宿泊を伴う対面交流を実施

イ 上記交流の際、本県の地域資源を活用した体験と防災体験を実施

ウ 上記に加え、オンライン等を活用した交流を2回以上実施

(3) 県負担・補助率の考え方

市町村の創意工夫を広域展開する事業であり、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,000	市町村への補助
合計	6,000	

決定額の考え方

財源については、地域未来交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

2 健やかで安らかな地域づくり

(2) 安らかに暮らせる地域 (6) 災害と危機事案に強い岐阜県づくり

(3) 誰もが活躍できる社会 (2) 新次元の地方分散に向けた環境整備

10の政策目標

(9) 豊かな感性を育み多様な子どもが一緒に学ぶ教育を実現する。

(2) 国・他県の状況

国や他県においては、関係人口の創出や地域防災力の向上を目的とした取組が進められているが、両者を融合し、先進事例に対して全額補助を行う制度は他に例がない。

(3) 後年度の財政負担

令和8年度以降は実施した事業の成果を踏まえ、横展開や面的な展開を検討する。事業の継続・拡充の可否は、国の交付金等の活用も視野に入れ総合的に判断する。

(4) 事業主体及びその妥当性

市町村の創意工夫を広域展開する事業であり、県が実施主体となるのは妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	ふたつのふるさと（海・山の防災交流）事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村 (理由) 教育・地域振興・防災の各分野において地域資源を活用した柔軟な事業展開が可能なため。
補助事業の概要	(目的) 県外児童生徒が岐阜県を「もうひとつのふるさと」と感じられるような取組みの推進 (内容) 交流に要する経費の助成
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 交流に要する経費の助成 (理由) 主体的に交流を実施する地域を支援するため
補助効果	先進・効果的な事例を発掘し、県下で普及できる
終期の設定	令和8年度 (理由) 成果や社会情勢を踏まえて継続・拡充・廃止等の方針を検討するため。

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか

県外児童生徒との交流を通じて、岐阜県を「もうひとつのふるさと」と感じる関係人口を育み、先進事例を県内全域に展開する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
防災交流の優良事例の選定				(別事業) 2	(累計) 5	

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度	R5年度

※R7年度：別事業で4,000千円（予算）

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)	
------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり）

2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成）

1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%）

0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）

(評価)	
------	--

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

市町村の創意工夫を促し、地域資源を活かした交流・防災体験の好事例を発掘することが必要

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

成果や社会情勢を踏まえて次年度以降の展開の必要性や手法について検討する。